

B 帯ワイヤレス (MCR54-B3) クイックガイド

トランスミッター
MTB40S



トランスミッター
MTP40S
(MTP41S)



レシーバー (スロットインタイプ)
: MCR54-B3

はじめに

このクイックガイドは、B 帯域で MTP40S (MTP41S) /MTB40S 送信機と MCR54-B3 受信機を運用するために必要な基礎情報を紹介しています。

目次

はじめに.....	2
目次	2
トランスミッター (MTP40S) の導入	3
電源	3
Menu 操作	4
マイク.....	4
コンパクター	5
RF Power 設定.....	5
周波数の設定	6
アンテナ.....	6
トランスミッター (MTB40S) の導入	6
電源	6
マイク.....	7
設定メニュー (補足)	8
レシーバー (MCR54-B3)の導入.....	9
電源 (ベース・オプション)	9
電源 (バッテリーオプション)	9
Menu 操作	10
周波数の設定	11
アンテナ.....	11
オーディオ出力の設定	12
赤外線シンク.....	13
B 帯の周波数.....	15
GP と CH.....	15
15 波の多チャンネル運用	15

トランスミッター (MTP40S) の導入

電源

フロントカバーを開けると、単三電池 2 本 (※) を装着することができます。電池は、アルカリ電池、ニッケル水素電池、専用のリチウムイオン充電電池を御利用いただけます。

※ 単三電池 1 本仕様の MTP41S もあります。



バッテリー

電池は、正しい向きに新品 (または充電された) 電池を入れてください。電池タイプはメニュー設定で、Alkaline, Ene-PRO, Lithimu を指定できます。

電源投入

上部にトグル式の電源スイッチがあるので、“O”の位置から“I”の位置へスイッチを操作すると電源が入り、起動後に送信出力が開始されます。ディスプレイの右上に、“RF 10”と表示され、LED が緑色に点灯している時は、送信出力しています。



送信出力せずに電源だけ入れたい場合は、フロントカバーを開けて、SELECT スイッチを押し込んで電源をいれてください。ディスプレイの右上に、“RF off”と表示され、LED が赤く点灯している時は、送信出力していません。(一定時間操作をしないとディスプレイは消灯して、ユニットの電源が切れます。)

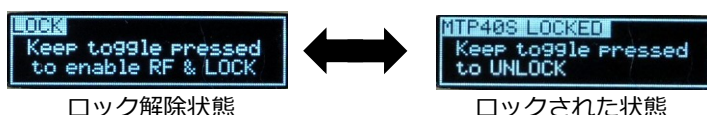


電源を切る

上部のトグル式電源スイッチを "0" の位置にして電源を切ります。(もしもロックモードに入っている場合、トグルスイッチが無効になっておいるため電源(と送信出力)が切れることはありません。ロックモードを解除してからスイッチを "0" にしてください。

ロックモード

ロックモードで LOCKED 状態にすると、常に送信出力した状態でボタン操作や電源スイッチ操作を受け付けなくなります。ロックモードは、メニューの "LOCK" 表示中に SELECT スイッチを長押しして切り替えることができます。



Menu 操作

レシーバーの電源が入った状態で、SELECT ボタンを左右に操作すると、MENU リストの設定オプションを変更することができます。

マイク

モード (配線)

運用するラベリアマイクロフォンを装着し、コネクター配線にあったモードに設定してください。MENU 画面から、**MIC > Mode** に入り、[2 wires] [2 wires+bias] [3 wires] から設定できます。

レベル

左から2つめの GAIN ボタンを押すと Gain を調整する画面にアクセスできます。マイクに向かって発声し、適切なインプットレベルになるように SELECT ボタンを左右に操作して Gain を調整してください。最後に SELECT ボタンを押して設定を確定してください。



ハイパスフィルタ

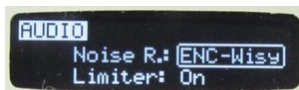
必要に応じて、低域成分をカットするハイパスフィルタを有効にしてください。
MENU 設定から、**AUDIO > HP Filt** に、Flat/60/80/120/170/250/400Hz の
オプションがあります。

リミッター

必要に応じて、Menu 設定から、Audio > Limiter で、On/Off を設定してください。
オーディオレベルが大きすぎてリミッターが動作すると、LED が青色に点灯し
ます。

コンパンダー

最適なオーディオ品質を保つため、コンパンダーの
設定を適切なオプションに設定する必要があります。
トランスミッターの Noise R 設定と、レシーバ
ーの Expander 設定を必ず同じ設定にしてください。
推奨オプションは、JNR-Wisy です。



※備考：JNR(ENR)はノイズ耐性に適する設定で、JNC(ENC)はヴォーカルに適し
た設定です。

RF Power 設定

RF Power オプションは、“10” と “L10” があります。6 波より少ない運用では“10”
に設定することでトランスミッターのバッテリー消費を抑えることができま
す。“L10” は、B 帯という狭いバンド内で多チャンネル運用するための Low
Intermodulation モードです。



周波数の設定

任意の運用周波数（806MHz～810MHz）で、レシーバーと同じ周波数に設定してください。

CH ボタンを押すと周波数設定が表示されます。



アンテナ

運用周波数によってアンテナの型番が異なります。適切なアンテナを運用する周波数に合わせて装着してください。アンテナの型番を確認するには、ユニットを再起動させ、起動時に表示される“Ant: 808” という番号を確認してください。



トランスミッター（MTB40S）の導入

MTB40S は、XLR コネクターにペンシル型のコンデンサーマイク（※）を挿し込んで運用できるプラグオン・トランスミッターです。



電源

電池の入れ方

バッテリーケースのカバーを開けると単三電池 2 本を装着することができます。電池タイプはメニュー設定で、Alkaline, Ene-PRO, Lithimu を指定できます。電池の挿入向きは、型番・シリアルナンバーのステッカーに表記されています。



※ Phantom(48V)をオフに設定してダイナミックマイクも利用できます。



電源投入

【ON】ボタンを押すと、起動後に送信出力が開始されます。

※本体にある PWR 文字は Firmware Update により無効になりました。



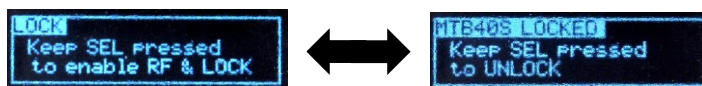
送信出力せずに電源だけ入れたい場合は、【CH/GAIN】と【ON】ボタンを同時に押し続けてください。画面に“RF OFF” が点滅して起動します。（一定時間操作をしないとディスプレイは消灯して、ユニットの電源が切れます。）

電源を切る

【OFF】ボタンを電源が切れるまで押し続けてください。（注意：ロックモードに入っているとこの操作で電源を切ることはできません。）

ロックモード

ロックモードで LOCKED 状態にすると、常に送信出力した状態でボタン操作や電源スイッチ操作を受け付けなくなります。ロックモードは、メニューの“LOCK”表示中に【ON】ボタンをを長押しして切り替えることができます。



ロック解除状態

ロックされた状態

マイク

ゲインの調整、周波数の設定、ハイパスフィルタ、コンパnderの設定等は、別ページの MTP40S の設定を参照ください。

設定メニュー（補足）

MTB40S は、MTP40S に無くて MTB40S にだけあるメニュー設定について。

MIC - (Phantom):

コンデンサーマイクを利用するときは、メニュー設定の Phantom(48V)を “On” にしてください。



MIC - Data(TSQ):

トーンスケルチ設定は基本的に “On” で利用してください。“Off” にすると、レシーバー側のトーンスケルチ有効によって音声ミュート状態になったり、トランスミッターのバッテリー残量が表示できなくなります。

RF On/Lock – RF Out:

ラジオマイク電波の送出しの設定です。



RF On/Lock – Autolock:

デフォルトは “Off” です。“On” にすると、ディスプレイ消灯後に自動的にロックモードに入ります。【ON】ボタンで一時的にロックを解除できますが、ふたたび画面消灯後にロックされます。



レシーバー (MCR54-B3)の導入

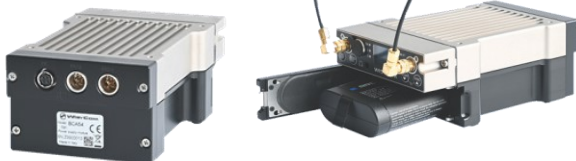
電源 (ベース・オプション)

ベースオプションの SLK54-IK (D-sub25) か BPA54 (4-pin ヒロセ) から電源供給できるほか、MCR54 本体の USB-C コネクタからも給電できます。



電源 (バッテリーオプション)

オプションの BPA54 をベース・オプションとして取付ければ、スマートバッテリー (RRC2040 リチウムイオン充電電池) で運用することもできます。



パワーインジケータ

【ON LED】の点灯時の色で電源ステータスを把握できます。緑色は外部電源を利用しており、外部電源電圧が低くなると緑色が点滅します。淡い緑色はバッテリーを利用しています。バッテリー電圧が低いと淡い緑色が点滅し、極端に電圧が低下すると赤色で点滅します。(画面のバッテリーはトランスミッターの電池です。)

電源投入とシャットダウン

[POW/EXIT] ボタンを長押しすると電源が入ります。[POW/EXIT] ボタンを3秒以上押し続けると画面でカウントダウンが始まり、最後にシャットダウンします。



レシーバーステータス LED

受信アクティブの時、ブルー (Ant-A) かグリーン (Ant-B) で点灯します。レッドはスケルチより RF レベルが低い、かノイズスケルチが ON の状態です。消灯時はレシーバー電源がオフです。



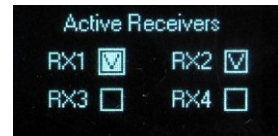
Menu 操作

[MENU/SEL] ボタンを押すと Menu 設定に入ることができます。Menu 画面から戻るには、[PWR/EXIT] ボタンを押します。メニューオプションを移動するには、[SCAN ▼] か [SYNC ▲] を押します。選択したオプションを決定するには、[MENU/SEL] ボタンを押してください。



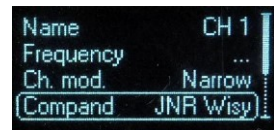
レシーバーチャンネルの On/Off

Menu → Setup → Active Rxs で各レシーバーチャンネルにチェックマークを入れて電源を On にすることができます。



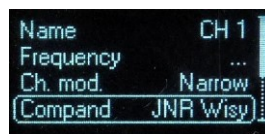
チャンネル・モジュレーション

チャンネル・モジュレーションは、“Wide” と “Narrow” を選べますが、B 帯送信機は “Narrow” バンドで送出していますので、受信機も “Narrow” に設定してください。メニューから Setup → Edit RX1 → Ch. Mod. で確認できます。“Wide” に設定すると、隣接する周波数と混信しやすくなります。



コンパnder

MCR54 のエキスパンダー設定は “JNR Wis” を推奨しています。設定を確認するには、メインメニューから Setup → Edit RX1 → Comband に入ってください。最適なオーディオ品質を保つため、トランスミッター機のコンパnderが適切に設定されていることをご確認ください。

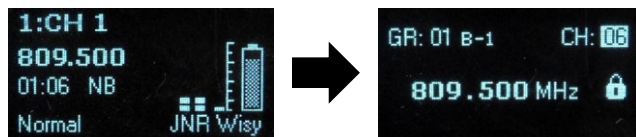


周波数の設定

任意の運用周波数（806MHz～810MHz）で、トランスミッターとレシーバーを同じ周波数に設定してください。

周波数の合わせ方

1. トップ画面から [SCAN ▼] ボタンを数回押して、RX1（または RX2,3,4）の画面を表示させます。
2. [MENU/SEL] ボタンを押すと、周波数設定画面に入ります。CH と GR でカーソルを点滅状態にすると数値を変更できます。
3. [MENU/SEL] ボタンを押して設定を確定します。



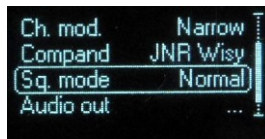
アンテナ

使用する周波数帯に適したアンテナを接続してください。MCR54 の B 帯用アンテナは、グリーンです。



スケルチ設定

スケルチの設定オプションは、“Normal” “Long Range” “User” の3つあり、推奨設定は“Normal”です。“Long Range” にしないとオーディオ信号が来ない場合は、受信電波状況の改善が必要です。



オーディオ出力の設定

出カタイプ

Menu → Setup → Adv. audio でオーディオ出力を設定できます。設定で“MAIN”はオプションコネクター（BPA54/SLK54-IK）を意味します。“AUX”はフロントパネルの TA-5 コネクターを意味します。

参考例：

- BPA54 でデジタル信号出力



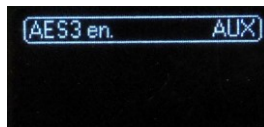
- BPA54 でアナログ信号出力



- RX1 の3分配出力も可能



- フロントパネルにデジタル出力

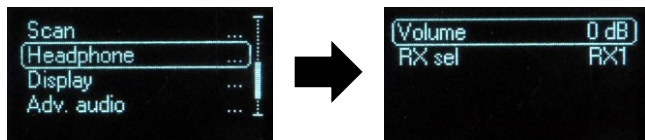


※補足

AES3en を“AUX” に設定すると、フロントパネルにデジタル信号が出力されます。メニューオプションの下段にあった AUX1、AUX2 はメニューから消えます。

ヘッドフォン出力

フロントパネルにある 3.5mm ミニジャックにヘッドフォンプラグを挿入して、RX1~4 のうちの 1 系統をモニターすることができます。

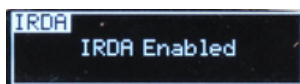


赤外線シンク

赤外線通信により、レシーバーに設定した周波数をトランスミッターに同期させることができます。

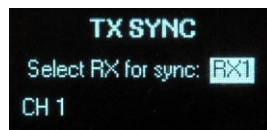
1) トランスミッターの準備

トランスミッター側を赤外線受信モードにするには、SELECT ボタンを操作して、“IRDA Enabled” と画面に表示させてください。



2) レシーバーの準備

MCR54 のフロントパネルにある [SYNC] ボタンを長押しすると、シンク設定画面にショートカットできます。メニューからアクセスするには、Setup → Edit RX1 → Sync と入ります。Select RX for sync: RX1 が点滅するので、同期させたいレシーバー番号に設定してください。[MENU/SEL] ボタンを押すとシンクが開始されます。

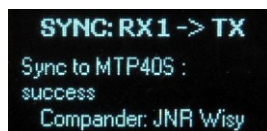
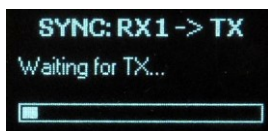


3) シンクさせるには。

赤外線通信用の受光部が向かい合うように、ユニット双方の向きと位置を調整してください。



通信が完了すると、レシーバーの画面は、「Waiting for TX…」 から、「Sync to XXXX success」 に表記が変わります。



B 帯の周波数

GP と CH

B 帯はグループ (GR) とチャンネル (CH) の組み合わせで運用できるようにプリセットが組まれており、同じグループ (GR 1~7) 内のチャンネルに設定することで混信することなく運用できます。

15 波の多チャンネル運用

Wisycom ワイヤレスシステムは L10 モードに設定することで最大 15 波※まで同一空間で運用することができます。GR を 00 に設定し、下記の表の帯カラーのチャンネルに合わせて運用できます。

CH	周波数		
1	806	125	1
2	806	250	1
3	806	375	2
4	806	500	2
5	806	625	3
6	806	750	3
7	806	875	4
8	807	000	4
9	807	125	5
10	807	250	5
11	807	375	6
12	807	500	6
13	807	625	7
14	807	750	7
15	808	875	8

CH	周波数		
16	808	000	8
17	808	125	9
18	808	250	9
19	808	375	10
20	808	500	10
21	808	625	11
22	808	750	11
23	808	875	12
24	809	000	12
25	809	125	13
26	809	250	13
27	809	375	14
28	809	500	14
29	809	625	15
30	809	750	15

※ Wisycom の多チャンネル伝送技術

狭いバンドで 15 波を運用できるように、送信機と受信機の両方に優れた技術が用いられています。相互変調歪 (インターモジュレーション) が発生しないように、送信機にはキャンセラー回路が設けられています。受信機では精度の高いフィルタ回路を搭載することで多チャンネル運用を最適化しています。



日本テックトラスト株式会社

営業所

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町 30-13 ONEST 元代々木スクエア 1 階

E-MAIL : sales@tech-trust.co.jp URL : <http://www.tech-trust.co.jp>